

## 妊婦の喫煙と飲酒行動が胎児・子どもに及ぼす影響について—第2報—

南部 春生,\* 山崎 可南子\*\*

### 要約:

心とからだをむしばむもの「タバコ・シンナー・アルコールなど」の害が強調され、児童・生徒・妊産婦の指導や成人病の予防対策が積極的に行われ、その重要性が定着してきた。

我々は昭和56年、62年の2回に亘って、妊婦の喫煙と飲酒行動が胎児に及ぼす影響について調査し、妊娠中の継続喫煙率が夫々8.3%、6.8%とやや減少傾向があり、また胎内発育は喫煙群で有意に低い結果が得られた。

見出し語: 喫煙率、胎内発育、周産期異常

### 研究方法:

#### 1. 研究対象と調査の方法

天使病院保健指導室の1カ月健診を受診した母親に「母親の飲酒と喫煙に関する調査」用紙を渡し、該当項目に記載してもらった。

#### 2. 研究期間

1) 第一回～昭和56年12月～昭和58年6月の間に出生し、1カ月健診を受診した1,700名。

2) 第二回～昭和62年5月～11月に出生し、1カ月健診を受診した959名。

### 研究内容と結果:

#### 1. 妊婦の喫煙率と胎児への影響

1) 妊娠以前の喫煙経験は夫々32.5%、31.6%と高く、妊娠中の継続喫煙率は8.3%、6.8%とやや減少の傾向が認められた。

2) 妊娠前の喫煙本数は10本以上が57.2%、70.9% (20本以上は18.7%)、9本以下は28.1%、29.1%であった。しかし妊娠中に10本以上喫煙妊婦は10%以下に激減した。

3) 出生時の体重(昭和62年)は表1のごとくで、母親の妊娠前・妊娠中、父親のいずれも喫煙群の体重が100g少く、また夫婦の喫煙との関係を見ると、夫婦とも非喫煙群の体重が最も大きく、逆に夫婦とも喫煙群が非喫煙群よりも男児で150g、女児では370g少なかった(表2)。

4) 低出生体重児の母親の喫煙状態をみると表3に示すごとく59例中10例(16.9%)の母親が妊娠中も喫煙しており、2500g以上の児900例中母親が継続喫煙したものは53例(5.8%)で、

\*聖母会天使病院小児科、\*\*同保健指導室

低出生体重児を出生した母親に喫煙している者が多い結果が得られた。

### 5) 妊娠、周産期の異常と喫煙

妊娠中に継続喫煙した者の96.1%に貧血を認め、妊娠中15本以上の喫煙妊婦で前期破水、帝王切開などの異常が多かった。表4は出生後1年を経過した244名について、性別、喫煙・非喫煙別周産期異常をみたものであるが、男児では35.3%・26.8%、女児は51.1%・32.8%といずれも喫煙群が異常に多かった。

### 6) 妊婦の喫煙と育児不安、罹病状況

出生後1年を経過した乳児の健診カルテから、1カ月、2カ月、3-4カ月、5-7カ月、8-10カ月、12カ月時の身体不安、発達不安、栄養不安および罹病状況を検討した(表5)。この結果は母数の不確実性が高いため参考として提示したが、喫煙群(S)と非喫煙群(NS)に大差なく、月齢とともに身体不安は減少し、その他の不安は大きな動揺をみせていない。両者に差のない理由としては父親の喫煙率が63.9%を占めていることから、環境要因として差のないことも一つの理由であろう。

## 2. 妊婦の飲酒率と胎児への影響

1) 妊娠以前の飲酒経験は51.8%、76.4%で近年増加の傾向が認められたが、妊娠中の継続飲酒は17.0%、36.9%と夫々3分の2減、半減していた。

### 2) 飲酒量と出生時体重、周産期異常

1回飲酒量が30g以上の妊婦では早期破水、帝王切開、胎児仮死等の異常が多かった。

また出生時体重は表6のごとくで、1回飲酒量の多い者に低出生体重児の出生率が高くなる傾向が多く、飲酒も喫煙と同様に周産期の異常や児に及ぼす影響の多いことが推測された。

### 3) 妊娠中の喫煙と飲酒の相互関係

種々の社会心理学的調査をみても、一般に喫煙者は非喫煙者に比べて心理不安が強く、コーヒーや酒を多く飲むといわれている。

我々の成績(昭和56年)でも非飲酒者のうち非喫煙者は83.9%であるが、飲酒回数が月に11回以上の者では非喫煙者は63.2%と低く、また妊娠中の喫煙・飲酒も妊娠中に禁煙した者では禁煙率も高く、継続喫煙は3.7%にすぎないが妊娠中飲酒を続けた妊婦の継続喫煙は11.5%と高く、これが胎児へ及ぼす影響の高いことが強く推測された。

4) 妊娠中の継続喫煙・飲酒妊婦から出生した25週、535gの超未熟児例を表3に\*で提示した。現在健常に成長している。

文献：

1) 岸 玲子ほか：妊婦の喫煙と飲酒行動についての調査研究、公衆衛生、19:334, 1985.

2) 丸山知子、南部春生、三宅浩次ほか：妊娠中の喫煙、飲酒と妊娠、分娩経過及び児に及ぼす影響についての調査、第35回日本小児保健学会抄録、新潟市、1988.

表1 母・父の喫煙と出生時体重

	項	例 数	*出生時体重g	P値
母の 妊 娠 前 喫 煙 前 n=925	非喫煙	833 (88.4)	3127 ± 466 <sup>※</sup>	<0.05
	以前喫煙 中止	199 (21.5)	3140 ± 439	
	喫煙	93 (10.1)	3041 ± 534 <sup>※</sup>	
妊 娠 中 n=890	非喫煙	827 (92.9)	3125 ± 464	N.S
	喫煙	63 (7.1)	3018 ± 555	
父の 喫 煙 n=925	非喫煙	270 (29.2)	3187 ± 416 <sup>※</sup>	<0.01
	以前喫煙 中止	64 (6.9)	3097 ± 538	
	喫煙	591 (63.9)	3081 ± 484 <sup>※</sup>	

\* mean ± SD

表2 夫婦の喫煙と出生時体重

性	項	例数	出生時体重*	P値
男 児 n=351	夫婦とも非喫煙	144 (31.4)	3221 ± 440	N.S
	“ 喫煙	25 (7.7)	3070 ± 495	
	夫のみ喫煙	182 (51.9)	3129 ± 551	
女 児 n=294	夫婦とも非喫煙	114 (38.8)	3152 ± 374*	<0.05
	“ 喫煙	20 (6.8)	2778 ± 620*	
	夫のみ喫煙	160 (54.4)	3064 ± 434	

\* mean ± SD

表6 妊娠中の飲酒量と出生時体重

妊娠中の 飲酒量E/100	総数 326人	出生時体重 (g)			
		~2499	2500~2999	3000~3499	3500~
~9	182	8 (4.4%)	44 (24.2)	101 (55.5)	29 (15.9)
10~19	72	4 (5.6)	24 (33.3)	34 (47.2)	10 (13.9)
20~29	50	4 (8.0)	12 (24.0)	25 (50.0)	9 (18.0)
30~	22	3 (13.6)	6 (27.3)	11 (50.0)	2 (9.1)

表3 低出生体重児と妊娠中の喫煙

胎週	* 535 ~999	1000 ~1499	1500 ~1999	2000 ~2499	計	≥2500
25-26	2 (1)				2 (1)	900/959 93.9%
27-29	1	1			2	
30-35		4	12 (3)	10 (4)	26 (7)	(53)/900 ** (5.8%)
36-41		1 (1)	1	27 (1)	29 (2)	
計 P%	3 (1) (33.3)	6 (1) (16.7)	13 (3) (23.1)	38 (5) (13.2)	59 (10) (16.9)**	59/959 6.1%

注 \* 25週535g、健在。継続喫煙・飲酒(多量)例  
( ) 継続喫煙妊婦959例中63例

表4 喫煙妊婦と周産期異常

項	No 244	早期破水	胎児敗死	産切	中毒症	* 児の疾患	合計
喫煙群	男 61	8	3	3		5	18
	女 47	16	2	2	1	3	24
	計 98	24(24.5)	5	5	1	8	42(42.8)
非喫煙群	男 82	12	3	4	1	2	22
	女 64	9	2	2	2	6	21
	計 146	21(14.3)	5	6	3	8	43(29.4)

注 \* 高血圧症、真性メレン、CHD、脳脊髄膜炎など  
( ) は%

表5 妊婦の喫煙と育児不安・罹病傾向

月齢	項	No	身体不安	発達不安	栄養不安	罹病傾向
1	S	98	60 (61.2%)	5 (5.1)	13 (13.3)	2 (2.0)
	NS	146	115 (78.8)	13 (8.9)	30 (20.5)	8 (5.5)
2	S	55	31 (56.4)	5 (9.1)	9 (16.4)	3 (5.5)
	NS	114	46 (40.4)	8 (7.0)	19 (16.7)	5 (4.4)
3-4	S	36	17 (47.2)	4 (11.1)	8 (22.2)	
	NS	70	26 (37.1)	11 (15.7)	10 (14.3)	7 (10.0)
5-7	S	32	23 (71.9)	2 (6.3)	3 (9.4)	3 (9.4)
	NS	73	26 (35.6)	13 (17.8)	13 (17.8)	7 (9.6)
8-10	S	22	7 (31.8)	4 (18.2)	2 (9.1)	3 (13.6)
	NS	60	16 (26.7)	13 (21.7)	4 (6.7)	2 (3.3)
12	S	25	4 (16.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	3 (12.0)
	NS	59	12 (20.3)	6 (10.2)	9 (15.3)	7 (11.9)

注 S: Smoker, NS: non Smoker  
但し、父親の喫煙率 63.9%



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:心とからだをむしばむもの「タバコ・シンナー・アルコールなど」の害が強調され、児童・生徒妊産婦の指導や成人病の予防対策が積極的に行われ、その重要性が定着してきた。

我々は昭和 56 年、62 年の 2 回に亘って、妊婦の喫煙と飲酒行動が胎児に及ぼす影響について調査し、妊娠中の継続喫煙率が夫々 8.3%、6.8%とやや減少傾向があり、また胎内発育は喫煙群で有意に低い結果が得られた。